

令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日)

令和2年5月20日(水)

公益財団法人DNP文化振興財団

令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1 アーカイブ関連事業

(1) 田中一光アーカイブ

①本人作品 ポスター	2,747 点
版画	259 点
エディトリアル	2,378 点
原画類	3,559 点
その他 (パンフ/V. I. 等)	3,013 点
②資料写真	28,025 点
その他資料類	2,397点
③他作家作品 ポスター・版画等	1,142 点
その他	160 点
④蔵書	9,928 点

(2) 福田繁雄ポスターアーカイブ

①本人作品 ポスター	1,605 点
版画	177 点
原画類	591 点
その他 (クラフト作品等)	425 点
②資料 書籍等	570 点
③他作家作品 ポスター・版画	2,453 点

(3) 永井一正作品アーカイブ

①本人作品 ポスター	913 点
版画	328 点
エディトリアル	1,273 点
原画類	797 点
その他 (V. I. 等)	775 点
②資料 作品ポジ	646 点
その他資料類	2,125 点
③他作家作品 ポスター・版画等	153 点
その他	63 点

(4) ポスターアーカイブ (令和2年3月末現在)

1 収蔵作家 : 236名 (国内作家119名 海外作家117名)

2 総点数 : 13,475点

3 令和元年度の受入れ状況 :

[国内作家]

井上嗣也 51点

勝井三雄 106点

計 157点

[国外作家]

ポーラ・シェア 30点

計 30点 合計187点

(5) アーカイブ作品の貸出

①DIC川村記念美術館

「描く、そして現れる—画家が彫刻を作るとき」展

会期: 令和元年9月14日～12月8日

概要: ロイ・リキテンスタイン作品2点を貸し出し

②岡山県立美術館

「太田三郎—此処にいます」展

会期: 令和元年9月28日～11月4日

概要: 太田三郎作品10点を貸し出し

③21_21 DESIGN SIGHT

「マル秘展 めったに見られないデザイナー達の原画」

会期: 令和元年11月22日～令和2年3月8日

※好評のため令和2年5月10日までの延長が決定したが、新型

コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館中

概要: 永井一正作品の原画類16点(6作品分)を貸し出し

④奈良県立美術館

「特別展 生誕90年 田中一光 未来を照らすデザイン」

会期: 令和2年1月25日～3月15日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月27日で終了

概要: 田中一光作品39点、木田安彦作品1点を貸し出し

2 展示関連事業

(1) ggg(ギンザ・グラフィック・ギャラリー)の展示

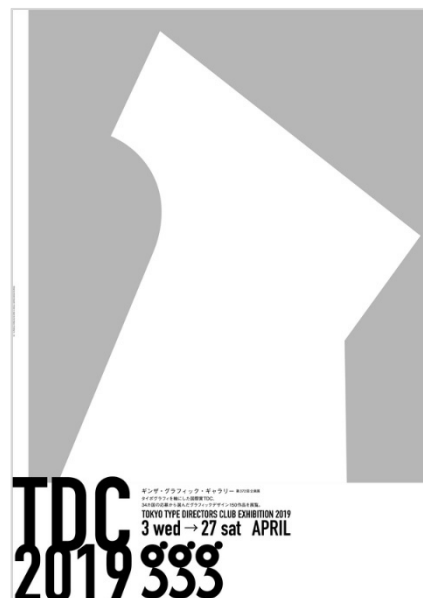
〒104-0061 中央区銀座 7-7-2 DNP 銀座ビル1階、地下1階
日曜・祝祭日休館 11:00a.m. - 7:00p.m. 入場無料

■第 372 回 TDC2019

会期: 2019年4月3日(水)~4月27日(土)

入場者: 7,991名、一日平均: 363名

東京タイプディレクターズクラブが主催する国際アニュアルコンペティション「東京 TDC 賞 2019」の成果を紹介する恒例の展覧会です。日本を含む34カ国、2,860点の応募から選出された、グランプリをはじめ受賞10作品やノミネート作品など、タイポグラフィを軸にしたグラフィックデザインの優秀作品150点あまりを展示しました。昨年のTDC2018を抜き、TDCとしては最大の入館者となりました。本展では、受賞者コメントを多言語アプリ「カタログポケット」を用いてインバウンド向けに提供しました。



■第 373 回 井上嗣也展 Beginnings

会期: 2019年5月14日(火)~6月26日(水)

入場者: 8,665名、一日平均: 228名

写真とタイポグラフィの斬新なデザインで、80年代から鋭い感性の作品を世に送り出してきた井上嗣也の個展。gggでは2010年の「TALKING THE DRAGON 井上嗣也展」に続き2度目の個展となります。今回の展覧会では、太陽、月、光、水、油、植物等の写真を駆使し、架空の宇宙を創出した「The Burning Heaven」、緊張感あふれる中にもユーモアと遊び心を忍ばせた「Happy Time」などの新作ポスターシリーズをはじめ、これまでの代表作から自選した傑作ポスター、ブックデザインを一堂に紹介しました。

※展覧会と同時期に開催されたADC賞の審査会において、本展で展示された「COMME des GARÇONS SEIGEN ONO」のアートワークで井上嗣也氏がADCグランプリを受賞。同時に、これも本展展示作品であるヨージ・ヤマモトのカタログで原弘賞も受賞されました。



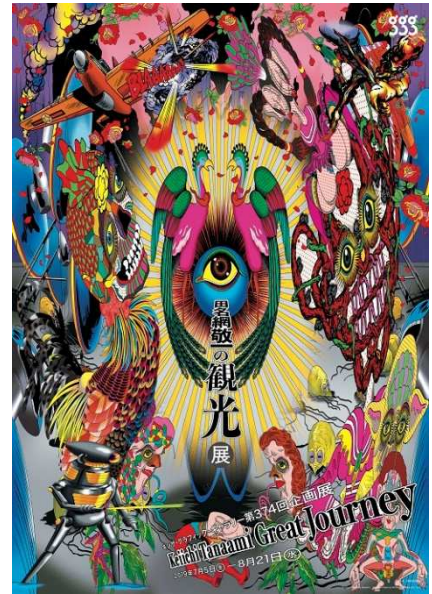
■第 374 回 田名網敬一の観光 Keiichi Tanaami Great Journey

会期： 2019 年 7 月 5 日(金)～8 月 21 日(水)

入場者： 9,503 名、一日平均： 244 名

昨年 8 月に京都 ddd ギャラリーで開催された「田名網敬一の現在」展をベースに、パワーアップした巡回展として構成。22 点の新作プリント作品、アニメーション、立体作品から、ファッションブランドとのコラボレーションアイテム、出版物、プロダクトアイテムなどを網羅し、孤高のアーティスト田名網敬一の「人生を通しての大旅行、冒険」に焦点を当てました。1F は大判のプリント作品に映像、立体オブジェを組み合わせ象徴的なインスタレーション空間を創出。B1 では、最新のさまざまなプロダクトに過去の多様な作品世界を織り交ぜ、創造の歴史の重みをも感じさせる田名網敬一ワールドを構成しました。

2F の大型スクリーンでは、4 月に JNN 系列でオンエアされた MBS「情熱大陸 田名網敬一」を上映し、作家の生の姿を紹介しました。



■第 375 回 Sculptural Type コントラプункト

会期： 2019 年 8 月 30 日(金)～10 月 12 日(土)

入場者： 5,619 名、一日平均： 156 名

「タイプデザインは彫刻のように物語る一つの形であり、しかもそのストーリーはここで終わらない」というコントラプункト代表ポー・リネマン氏の理念のもと、これまでコントラプункトが手がけた 10 のブランドに対して設計したオリジナルタイプフェイスを、フットペダル、キーボード、音声などを使いインタラクションをもたせた 10 台のプロジェクター映像で紹介しました。

本展に併せ、『gggBooks-129 コントラプункト』も刊行しました。



■第 376 回 日本のアートディレクション展 2019

会期： 2019 年 10 月 23 日(水)～11 月 16 日(土)

入場者： 6,860 名、一日平均： 298 名

一昨年まで ADC 展として開催されていた恒例の展覧会。昨年からは名称変更とともに開催時期もこの時期の開催となっています。2018 年 5 月から 2019 年 4 月までの一年間に発表、使用、掲載された約 8,500 点の応募作品のなかから、ADC 会員の 3 日にわたる厳正な審査を経て選び抜かれた受賞作品、最終ノミネート作品、年鑑掲載作品を紹介しました。

新聞広告部門ノミネート作品として DNP の企業広告「この数センチ、わずかと見るか、着実と見るか。」(CD: 佐藤雅彦)も B1 に展示されました。ggg では会員作品、クリエイションギャラリー G8 では一般作品が公開されました。

展示作品は小諸高原美術館への巡回となりました。



■第 377 回 動きの中の思索 — カール・ゲルストナー

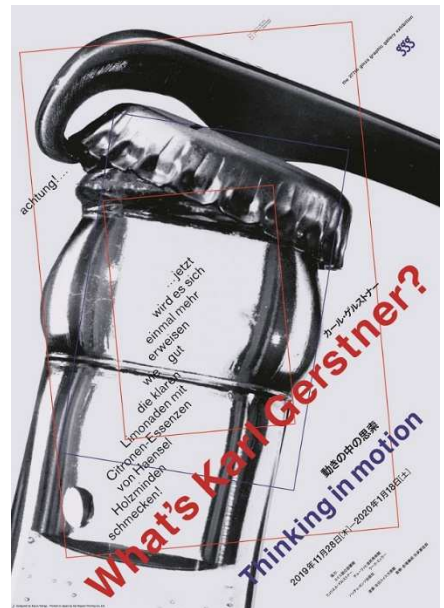
会期： 2019 年 11 月 28 日(木)～2020 年 1 月 18 日(土)

入場者： 5,124 名、一日平均： 146 名

スイスを代表するグラフィックデザイナー、カール・ゲルストナーの日本初の個展。広告デザイン 25 点、傑作ポスター 9 点をはじめ、CI 構築のプロセスや、1964 年にゲルストナーが上梓した名著『デザイン・プログラム』の全貌を紹介しました。

デザインと並行して取り組んだアート作品にも着目し、デザイナー、そしてアーティストとしてのゲルストナーの思考に迫るものとなりました。

本展に併せ、『gggBooks-130 カール・ゲルストナー』も刊行しました。



■第 378 回 河口洋一郎 生命のインテリジェンス

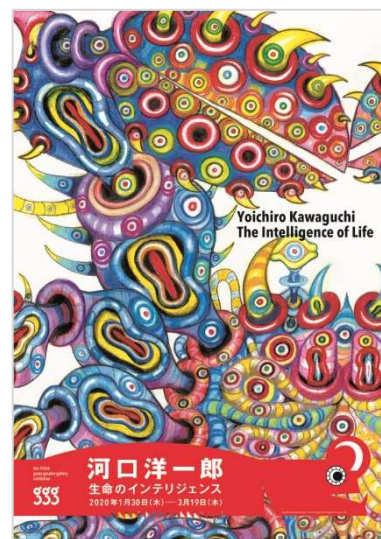
会期： 2020 年 1 月 30 日(木)～3 月 19 日(木)

入場者： 4,363 名、一日平均： 106 名

コンピュータ・グラフィックスによるアートの世界的先駆者、河口洋一郎は、生物の形の発生・成長・進化をプログラミングし、数理的シミュレートをすることで、5 億年後のはるか未来を生きる生命体を創り続けてきました。本展の一階では、遊泳・歩行・飛翔する未来の芸術生命体のドローイングを多数紹介、地階では迫力の CG 映像や立体作品を展示しました。

また、同時期開催の関連イベントとして「河口洋一郎 生命のインテリジェンス in DNP プラザ」が 1 月 8 日～3 月 16 日に開催され、全長 8 メートルの宇宙鳳凰の展示の他に、塗り絵コーナーなども設けられました。

どちらの展示も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、当初予定の会期どおりに開催いたしました。



(2) ddd(京都dddギャラリー)の展示

〒616-8533 京都市右京区太秦上刑部町 10

11:00-19:00(土曜・日曜特別開館 18:00 まで) 日曜・祝日休館 会期中一回日曜特別開館 入場無料

■第 220 回 本の縁側 矢萩多聞と本づくり

会期: 2019年3月30日(土) - 6月19日(水)

入場者: 1,776名、一日平均 28名

京都在住のブック・デザイナー、矢萩多聞氏はこれまで500冊を超える本を手がけてきました。手作り絵本で有名なインドの出版社、タラブックスを日本に紹介するなど、本にまつわるユニークな活動を展開しています。本展では矢萩氏が手がけた本を実際に手に取って見ることができるよう展示し、併せて、本づくりの魅力を知らせるために矢萩氏が行ってきたワークショップなど、数々のプロジェクトを紹介しました。また会期中「本づくり」を体感してもらえる試みとして「刷る」「編む」「綴じる」をテーマに3回のワークショップを行いました。



■第 221 回 ヘイセイ・グラフィックス (CCGA より巡回)

会期: 2019年6月29日(土) - 8月17日(土)

入場者: 1,175名、一日平均 28名

CCGAで本年3月から開催した展覧会の巡回です。。DNP 文化振興財団が所蔵するポスターなどの中から、平成の期間中に制作された作品を展示。激動の30年間で、グラフィックデザインがどのようにその変化に寄り添い、また視覚コミュニケーションの力により、どのように時代に影響を与えたのかを検証しました。CCGAでの展示作品から、dddのスペースに合わせあらためて91点をセレクト。関西ならではの作品(海遊館・FM802)も2点追加して展示しました。会期中に3回のギャラリーツアーを開催しました。



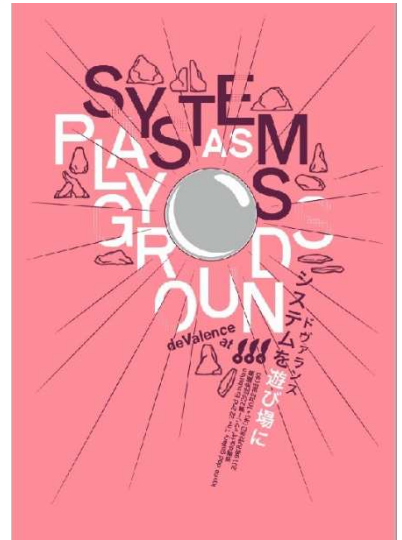
■第 222 回 ドヴァランスーシステムを遊び場に

会期： 2019 年 8 月 28 日(水)～10 月 23 日(水)

入場者： 889 名、一日平均 19 名

deValence(ドヴァランス:アレクサンドル・ディモス氏、ジスラン・トリブレ氏は、現在フランスで最も精力的に活動しているグラフィックデザインスタジオの一つです。これまでにヴェネツィア・ビエンナーレ、ポンピドゥー・センター、オーベルヴィリエ国立演劇センター、インテリア・デザイン国際見本市「メゾン・エ・オブジェ・パリ」、さらにはピエール・ユイグ、ラファエル・ザルカ、といったフランスを代表する現代アーティストを顧客としてきました。日本初となる今回の個展では、ドヴァランスが現代グラフィックデザイン変革の一翼を担ってきたことを示す代表的な作品の数々を紹介しました。

ICOM 京都大会 2019 組織委員会からも後援をいただき、京都 ddd ガallery およびアンスティチュ・フランセ関西において記念トークイベントを開催しました。



■第 223 回 GRAPHIC WEST8:三重野龍 大全 2011-2019「屁理屈」

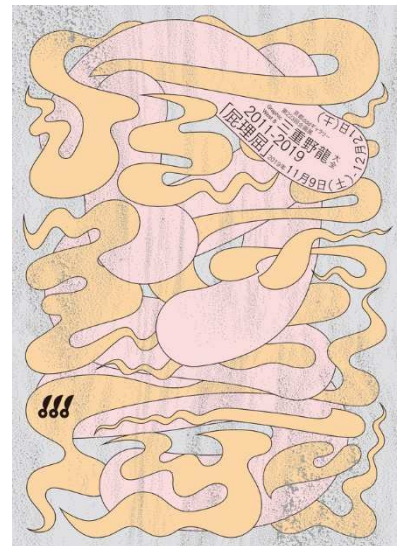
会期： 2019 年 11 月 9 日(土)～12 月 21 日(土)

入場者： 1,541 名、一日平均 42 名

三重野龍は、大手クライアントの仕事やデザインコンペでの受賞といった従来の若手グラフィックデザイナーのメインストリームから距離を置き、オルタナティブな独自のスタンスで活躍しているデザイナーです。京都を拠点にしたデザイングッズショップ兼ギャラリーの運営をはじめ、パフォーマンス活動など、デザインとアートの垣根を越えたその活動が注目を浴び、近年はカフェのロゴから公立美術館の展覧会の告知ツールまで領域を広げ、同世代を中心に熱い支持を受けています。

本展では、そんな彼のこれまでの全仕事を網羅し、従来のメインストリームにはなかった感覚と、新世代のデザイナーの息吹を紹介しました。

ギャラリートークには若い方を中心に多くの方が集まり、特にクロージングトークでは 60 名の募集がすぐに満席となり、70 名の方が立ち見で参加するなど大盛況となりました。



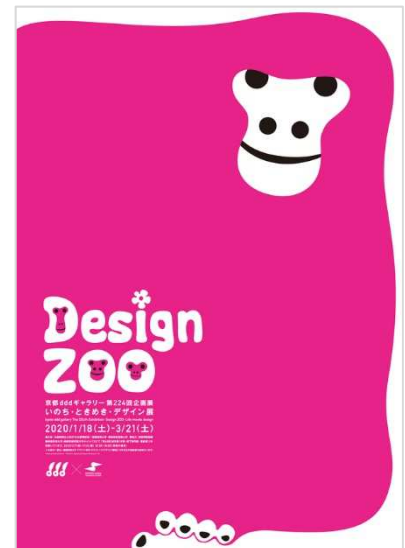
■第 224 回 Design ZOO: いのち・ときめき・デザイン展

会期: 2020年1月18日(土)~3月21日(土)

入場者: 1,239名、一日平均23名

本展では、数多くの動植物園のグラフィックデザインに携わってきた嵯峨美術大学池田泰子教授の知見を通して、現地体験とリンクする“身近で新鮮な”グラフィックへの扉を開くことを目指しました。「京都市動物園」をイメージした生物多様性保全を学ぶシンボルツリーや、ギャラリー内を持ち歩ける動植物由来の素材が入った万華鏡、動物の実際のサイズを体感できる飛び出すサイン、動物たちの生息域を学ぶジオラマ、生態系を感じるゲームといった作品が嵯峨美術大学のプロジェクトによって、「Design ZOO」として京都 ddd ギャラリーに現出しました。

本展覧会においては嵯峨美術大学の学生にも展示および展示説明などで協力をいただきました。また、会期中に植物を使った万華鏡を手作りするワークショップを開催し、幼稚園、小学校低学年を中心に父兄を含め29名が参加しました。



(3) CCGA 現代グラフィックアートセンターの展示

〒962-0711 福島県須賀川市塩田宮田 1

午前 10:00～午後 5:00(入館は午後 4:45 まで)

一般=300 円 / 学生=200 円 / 小学生以下と 65 才以上、障害者手帳をお持ちの方は無料。

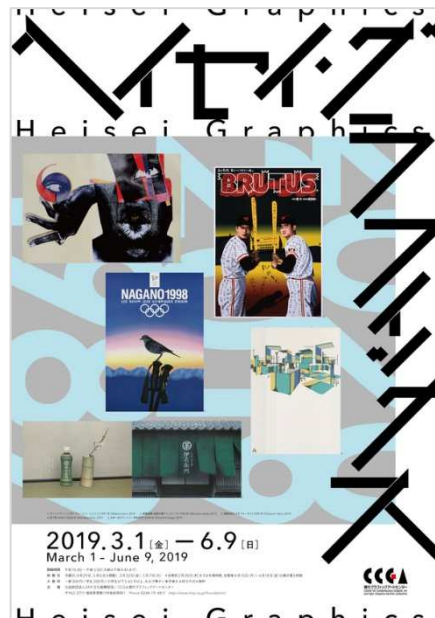
■第 77 回 ヘイセイ・グラフィックス

会期: 2019 年 3 月 1 日(金)～6 月 9 日(日)

入場者: 1,268 名 一日平均 14.6 名

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ所蔵ポスターの中から平成時代に制作された作品を選び、この 30 年間の社会史・文化史におけるグラフィックデザインを展望した展覧会。ポスターおよびエディトリアルなど計 115 点を年代順で 5 つのセクションに分けて展示しました。

平成から令和に移るタイミングにあった企画展として、TV や新聞などのメディアにも取り上げられ、通常の企画展としては震災以後最多の入場者数を記録しました。

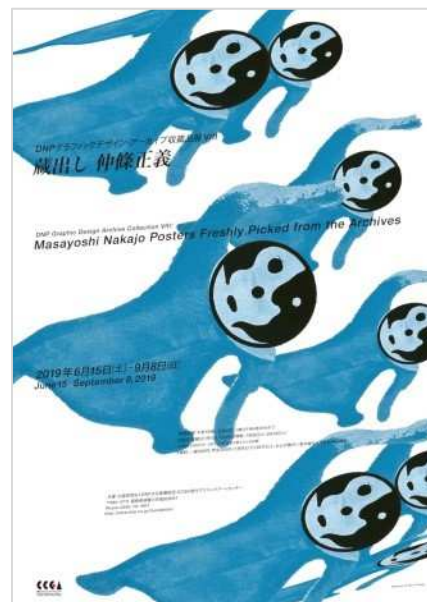


■第 78 回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VIII: 蔵出し 仲條正義

会期: 2019 年 6 月 15 日(土)～9 月 8 日(日)

入場者: 659 名 一日平均 8.9 名

浅葉克己展(2015)、松永真展(2017)に続く DGA コレクション展。グラフィックデザインをはじめ編集・広告・アートディレクションなど、多方面で活躍する仲條正義の仕事の中からポスターを中心に、1970 年代の初個展出品作品から最近作にいたる約半世紀を展覧し、彼のデザイン世界の軌跡をたどりました。また約 40 年間にわたりアートディレクションを手掛け、先鋭的なカルチャー誌というイメージを作り上げた資生堂『花椿』誌の一部もあわせて展示しました。



■第 79 回 柔らかな版:タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.32

会期: 2019年9月14日(土)~12月22日(日)

入場者: 520名 一日平均 6.2名

CCGA 所蔵のタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションから、リキテンスタイン、ステラなどアメリカ現代美術を代表する作家たちがニューヨークのタイラーグラフィックス版画工房を舞台に生み出したスクリーンプリント作品 38 点を展示しました。また、商業印刷の分野におけるスクリーンプリントの使用例として、日本のグラフィックデザイナーたちがこの技法を用いて制作したポスター作品 32 点による小展示も同時開催しました。



3 教育・普及関連事業

(1) ギャラリートーク(セミナー)

展覧会の開催に合わせて25回のギャラリートークを開催しました。

ggg(東京)会場:8回 417名 / ddd(京都)会場:16回 616名 / CCGA(福島)会場:1回 53名

ギャラリートークは、会場のセミナー会議室、展覧会場、周辺施設などを使って、展示作家、キュレーターの方々等に、講演形式、対談形式、ワークショップ形式などでグラフィックデザイン、アートへの思いを語っていただき、グラフィックアート、デザイン文化の普及促進につなげています。

セミナーのインターネット中継をおこなうことで、不特定多数の方の参加機会が増加しています。

CCGA(福島)では、来館者の希望に応じて無料のギャラリー解説を行なっています。



(2) 講演会

バウハウス 100 周年記念イベントとして、講演会「アフター・ザ・バウハウス:ニュー・バウハウスとブラック・マウンテン・カレッジ」を 12 月 13 日(金)銀座ビル3Fで開催しました。

講師:井口壽乃(埼玉大学大学院教授)、永原康史(多摩美術大学教授)、天貝義教(秋田公立美術大学教授)、キヨコ・ラーナー。

バウハウスの活動に興味関心のある専門性の高い方を中心に71名が参加されました。

この講演をまとめたものを、『DNP 文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.3』へ掲載する予定です。



(3) 版画工房(CCGA/ワークショップ)

CCGAを版画鑑賞および版画教育の拠点とするために版画工房を開設し、以下の講座を開講しました。

●シルクスクリーン講座

日時:Aコース:10/5(土)、10/6(日)

Bコース:10/19(土)、10/8(日)

計4日間 各日10:30~16:30

講師:鷹野健氏(版画家)

概要:2013年以来のシルクスクリーン講座でしたが、今回は初の試みとして写真製版に挑戦しました。同じ内容で2コース開講しました。

受講者数:Aコース8名/Bコース7名



●木口木版でカードづくり

日時:11/16(土)、11/23(土)、11/30(土)、12/7(土)

計4日間 各日10:00~16:00

講師:野口和弘氏(版画家)

概要:木口木版を用いた年賀状・クリスマスカードの制作講座です。昨年も同講師による木口木版を用いた蔵書票作成をおこないました。

受講者数:7名



●版画工房一般開放

ワークショップ開講日以外の土曜日に工房を一般に開放しています。

(1、2月は冬期休館)

(3) ggg Books

●ggg Books を発行しました。

『ggg Books -129 コントラプункト』: 1,165 円、
1500 部

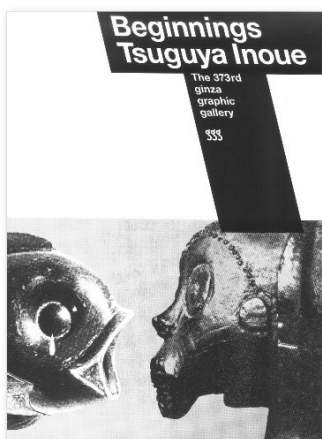
『ggg Books -130 カール・ゲルストナー』:
1,165 円、1500 部

ggg Books は電子書籍版も発行しました。

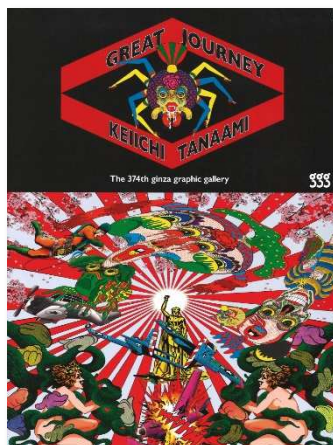


(4) 図録等の発行と頒布

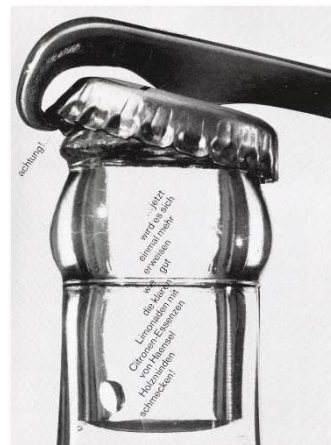
●井上嗣也展 Beginnings、田名網敬一の観光 Keiichi Tanaami Great Journey、動きの中の思索 — カール・ゲルストナー、河口洋一郎 生命のインテリジェンス(以上 ggg)、DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VIII: 蔵出し 仲條正義(CCGA)の開催に合わせて、冊数限定の図録を作成しました。これは、DNP の技術である「プリモアート(高精細プリント技法)」を利用したもので RGB 方式にもかかわらず再現可能な色幅が通常の印刷より広いことが特徴です。32P、280×380mm。



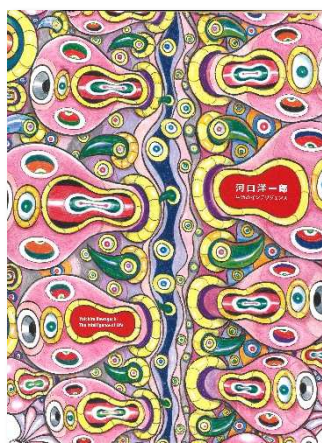
井上嗣也 表紙



田名網敬一 表紙



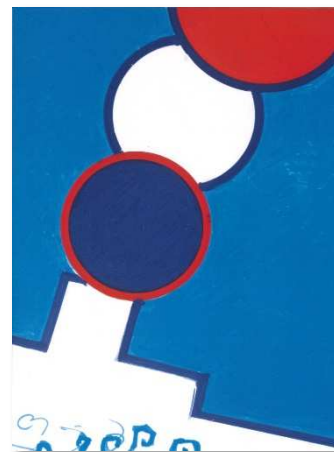
カール・ゲルストナー 表紙



河口洋一郎 表紙

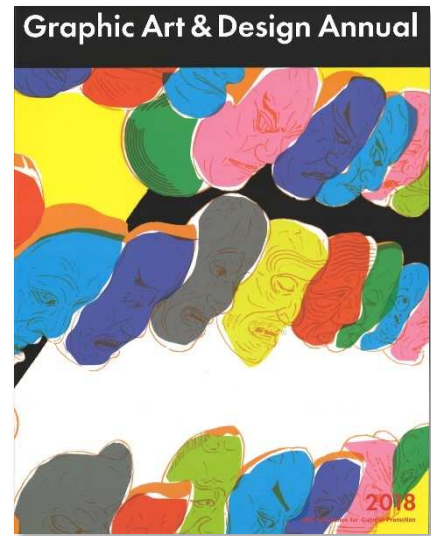


河口洋一郎 見開き



仲條正義 表紙

● アニュアルレポート



表紙デザイン: 横尾忠則

4 国際交流関連事業

(1) AGI(国際グラフィック連盟)日本会員事務局サポート

●9月23日～28日、AGI ロッテルダム総会 2019に参加しました。

日本会員の講演準備や海外会員とのコミュニケーションを支援し、非参加会員への総会報告を行ないました。



(2) アムステルダム市立美術館「カラフル・ジャパン」展と「ウイム・クロウエル」展参加

●アムステルダム市立美術館において、当財団から寄贈した日本のポスターを用いた「カラフル・ジャパン」展と「ウイム・クロウエル」展が開催されました。AGI 総会終了後の9月28日に、両展覧会を企画したカロリン・フラーゼンブルグさんの退官記念式典とオープニングパーティが開催されました。

同氏は2018年に京都 ddd ギャラリーと ggg で開催された展覧会「ウイム・クロウエル グリッドに魅せられて」を監修いただいた方です。式典では、クロウエル氏のご遺族も参加される中、当財団から北沢がスピーチをおこないました。



「ウイム・クロウエル」展



「カラフル・ジャパン」展

(3) フォルクヴァンク美術館(ドイツ エッセン)「松永真ポスター展」開催協力

●同館は、1906年に設立された歴史ある近現代美術館で、ドイツの作品を中心に、350,000点以上のポスターをコレクションしています。松永氏は、同美術館へポスター作品を145点寄贈されています。

10月11日-2020年1月12日「Shin Matsunaga Made in Japan - Plakate」が開催され、寄贈作品のうち、代表作92点、新作12点が展示され、1万人以上の来場がありました。



(4) SPACE 27(香港) 田中一光展開催協力

●デザイナーであり、アーティストでもあるアラン・チャン氏による展覧会「Hello! Ikko Tanaka Exhibition」がギャラリーSPACE 27にて10月19日-2019年11月10日開催されました。

作品と合わせて、故田中一光氏の豊かな人間関係を裏付ける、氏をよく知る方々によるインタビュー映像や写真資料も展示されました。このインタビューには当財団も協力いたしました。

開幕式典には当財団の舟橋が招待され、スピーチをおこないました。

会期中、7回実施されたキュレーターによるギャラリーツアーが好評を博し、計260名ほどの方が参加、田中一光作品への見識を深めました。



5 研究助成関連事業

(1) 平成30年度年間研究助成プログラムの実施

今年度より B 部門の研究テーマを変更しました。これは、A部門において最近アーカイブに関する研究の応募が増えてきている状況のためです。

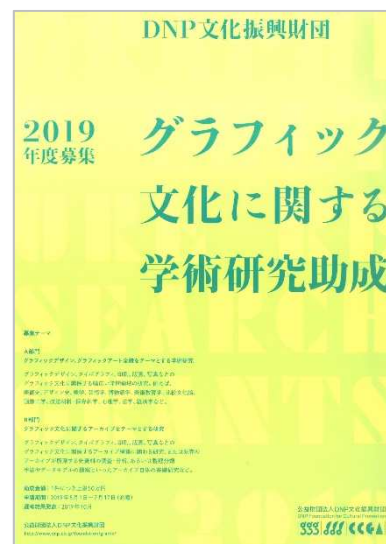
●募集テーマ

A部門《グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究》

グラフィックデザイン、版画などのグラフィック文化に係る幅広い学問領域の研究。例えば、美術史デザイン史、美学芸術学、博物館学アーカイブズ学、美術教育学、比較文化論、画像工学、技法材料・保存科学、心理学、法学、経済学など。

B部門《グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究》

グラフィックデザイン、タイポグラフィ、印刷、版画、写真等のグラフィック文化に係るアーカイブ構築に関わる研究、または既存のアーカイブが所蔵する史資料の調査・分析、あるいは整理分類手法やデータモデルの提案といったアーカイブ自体の基礎研究など。



●令和元年度採択研究（11件）

No.	部門	テーマ	氏名 所属	決定額(円) (申請額)	次年度 継続希望
1	A	患者・市民向けがん情報提供における効果的なメディカルイラストレーションの作成・活用に向けた大規模アンケート調査	原木 万紀子 立命館大学 共通教育推進機構 特別招聘准教授	500,000 (500,000)	○
2	A	1980年代におけるイラストレーターの社会的立ち位置とイラストレーション言説の恣意性をめぐる研究	塚田 優 多摩美術大学油画研究室 助手	350,000 (350,000)	○
3	A	都市空間に刻まれるグラフィックス文化：シーン街区の言語景観に関する研究	池田 真利子 筑波大学 助教	500,000 (500,000)	○
4	A	日本近代石版画研究発展のための亀井至一・竹二郎研究	中山 恵理 郡山市立美術館 学芸員	500,000 (500,000)	○
5	A	ペーパー・ギャラリー：出版アートを通じた日米交流	廣 李果 南カリフォルニア大学 美術史学部 ドーンサイフ博士教職フェロー	500,000 (500,000)	○

6	A	杉浦非水の戦争疎開資料に関する調査研究	折井 貴恵 川越市立美術館 学芸員	500,000 (500,000)	○
7	A	日本の写真黎明期におけるカロタイプとアンブロタイプの実践にみる写真の複製性にたいする認識	安藤 千穂子 京都工芸繊維大学 博士後期課程	500,000 (500,000)	○
8	A	20世紀前半の日本・ドイツにおける文字改革運動の経済史的研究—カナモジカイとパウハウスを手がかりに—	川嶋 稔哉 ペンシルヴェニア大学 博士課程 大学院生	500,000 (500,000)	○
9	A	第二次世界大戦後のイタリアのグラフィック・デザイナーと社会: アルベ・スタイナーに関する基礎的研究	太田 岳人 千葉大学 文学部 非常勤講師	500,000 (500,000)	○
10	B	民間所在アーカイブズにおける写真の公開・活用体制の構築—女性・子どもを記録した写真家を対象に—	阿久津 美紀 目白大学 人間学部 児童教育学 科 助教	500,000 (500,000)	○
11	B	粟津潔アーカイブにおけるポスター類画像データ公開と著作権対応について	石黒 礼子 金沢 21 世紀美術館 アーキビスト	500,000 (500,000)	○

合計 5,350,000

●平成30年度採択研究継続助成（10件）

No.	部門	テーマ	氏名 所属	決定額(円) (申請額)
1	A	イメージ、タイポグラフィ、イデオロギー: 植民地時代(1920-30年代)における韓国の構成主義	鄭善娥(チョン, ソナ) ソウル大学 博士課程	250,000 (500,000)
2	A	視覚文化研究における生物学とバイオメディアの考察: 微生物によるグラフィックスを事例に	長谷川 紫穂 埼玉大学大学院人文社会科学研究所 産学官連携研究員	500,000 (500,000)
3	A	古代地中海文明における空間と平面を繋ぐ媒体としてのグラフィックアートに関する研究: 古代エジプトのデザイン技法の分析を中心	安岡 義文 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 日本学術振興会特別研究員 SPD	500,000 (500,000)
4	A	画面デザインの保護のあり方・意匠法による保護拡張は必要か	麻生 典 九州大学芸術工学研究院 助教	500,000 (500,000)
5	A	実験心理学手法による慣用色名認識の現状把握とカラーシステムへの対応性評価	吉澤 陽介 木更津工業高等専門学校情報工学科 准 教授	350,000 (500,000)

6	A	写真植字と光学的デザイン: 1950年代末~90年代前半の日本における組版とブック・デザインの展開	阿部 卓也 愛知淑徳大学創造表現学部 准教授	300,000 (500,000)
7	A	書物の機能と装飾: 西欧初期中世法典写本の研究	安藤 さやか 東京藝術大学美術学部芸術学科 西洋美術史研究室 教育研究助手	500,000 (500,000)
8	A	近代日本写真における雑誌からオリジナル・プリントへのメディア変遷—ギャラリスト・石原悦郎の書簡アーカイビングを通じて	粟生田 弓 石原悦郎とツァイト・フォト・サロン アーカイブズ	500,000 (500,000)
9	A	ドイツ語圏のジャポニスム: ヴァルター・クレムとカール・ティーマンの多色木版画を中心に	青木 加苗 和歌山県立近代美術館 学芸員	500,000 (500,000)
10	A	井上隆雄写真資料のアーカイブ構築に基づいたラダック仏教壁画のグラフィック的観点からの表現技法研究	山下 晃平 京都市立芸術大学美術学部 非常勤講師	500,000 (500,000)

合計 4,400,000

●令和2年度新規採択スケジュール

3月初旬 告知開始

4月1日~6月17日 申請期間

6月17日 募集締め切り

8月31日 令和2年度採択研究中間報告書締切

9月中旬 審査委員による一次審査(書類による審査)完了

9月下旬 審査委員会による二次審査開催。採択研究を選考

10月上旬 採択者への通知、ウェブ上での公表

●審査委員メンバー

柏木 博(委員長).....武蔵野美術大学名誉教授

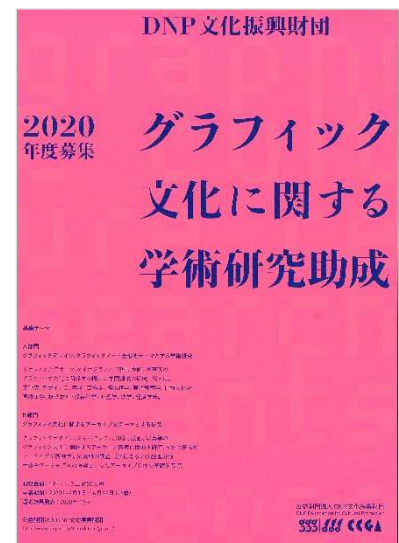
前田富士男.....慶應義塾大学名誉教授

井口壽乃.....埼玉大学大学院教授

建畠 哲.....多摩美術大学学長、埼玉県立近代美術館館長

永原康史.....多摩美術大学教授

並木誠士.....京都工芸繊維大学教授、京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長



(2) 研究助成成果報告会開催

財団の第2回研究成果報告会兼交流会を昨年に続き 11 月 22 日(金)銀座ビル3Fで開催しました。成果報告者の人数を増やし発表時間を長くしたことにより、発表内容がより充実したものとなりました。終了後の2Fでの交流会では審査委員の柏木先生、前田先生、井口先生も参加され、参加者同士も活発に交流を深め有意義な会となりました。参加者 44 名。同時に研究助成紀要 vol.2 も発行しました。B5判、本文 292 ページ、非売品、550 部印刷



成果報告会



交流会



研究紀要

(3) 令和元年度協賛助成実績 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	対象	主催	年月	金額	備考
1	第31回すかがわ国際短編映画祭へ協賛	すかがわ国際短編映画祭実行委員会／須賀川市教育委員会	2019/5	30,000 円	短編映画フェスティバルおよびコンペ
2	須賀川地区高校美術部研修会	須賀川地区高校美術部連盟	2019/10	50,000 円	CCGA にて開催の須賀川地区高等学校美術連盟研修会の送迎バス運行費
3	第31回田善顕彰版画展へ協賛	須賀川商工会議所青年部／須賀川市教育委員会後援	2020/2	50,000 円	須賀川出身の江戸期の銅版画家、垂政堂田善(あおうどうでんぜん)顕彰を目的とする、市内小中学生対象の版画コンクール

(4) 会員参加

以下の団体の会員となっています。

1. 東京イラストレーターズ・ソサイエティ / 賛助会員
2. 東京アートディレクターズクラブ / 賛助会員
3. 公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 / 賛助会員
4. 東京タイプディレクターズクラブ / 法人・団体会員
5. 公益財団法人助成財団センター / 会員
6. 全国美術館会議 / 会員館(CCGA現代グラフィックアートセンター)
7. 東京アート&ライブ構想実行委員会 / 会員

6 会議の開催

●第23回理事会

(令和元年 5 月 20 日 月曜日)

提案(1)平成 30 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)事業報告および収支決算について

提案(2)評議員会の招集について

●第10回 評議員会

(令和元年 6 月 5 日 水曜日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室

東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

第1号議案 議長の選任について(決議事項)

第2号議案 議事録署名人選出について(決議事項)

第3号議案 平成 30 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)事業報告書について(報告事項)

第4号議案 平成 30 年度(4 月 1 日～3 月 31 日)決算報告書について(決議事項)

●第24回 理事会

(令和元年 6 月 5 日 水曜日)

第1号議案 平成 30 年度利益相反取引の承認について(決議事項)

第2号議案 理事長および専務理事の業務執行状況について(報告事項)

●第25回理事会

(令和 2 年 3 月 25 日 水曜日)

提案(1)令和2年度 寄付金の受入について

提案(2)令和2年度 事業計画、予算計画について

提案(3)令和2年度 利益相反取引の承認について

提案(4)令和2年度 資金調達及び設備投資の承認について

提案(5)役員候補者の推薦について

提案(6)評議員候補者の推薦について

提案(7)審査委員の選任について

提案(8)研究助成プログラムの助成金交付について

提案(9)審査委員会規程改定について

提案(10)令和2年度 協賛計画について

以上